

地域の居場所となる図書館における利用者の滞在行動について

－ 太田市美術館・図書館と那須塩原みるるの比較から －

日大生産工(院) 守屋 陽平

日大生産工 山岸 輝樹

1. はじめに

図書館を「地域の居場所」として計画することが、近年多くの自治体で進められている。その際もっぱら本棚と閲覧用の机・椅子により整備されたこれまでの図書館とは異なり、内部空間のデザインはより多様な居場所がデザインされる傾向にあり、現代社会が求める多様性を包摂する寛容な公共空間が求められているように思える。

太田市美術館・図書館の図書館は、一般的な地域図書館とは異なり、開かれた地域の居場所として設計され、利用されている。筆者らは一般の図書館とは異なる多様な姿勢での利用が見られることを明らかにしている¹⁾。

2. 目的

本研究では、「地域の居場所」として評価が高い太田市美術館・図書館(以後「太田」)の図書館と比較対象として那須塩原図書館みるる(以後「那須」)を対象に、利用者の滞在行動について調査し、地域の居場所となる図書館としての特徴的な行為を把握することを目的とする。

表 1 調査施設概要

所在地	太田市美術館・図書館	那須塩原図書館みるる
所在地	群馬県太田市	栃木県那須塩原市
人口密度(人/km ²)	1,267.0 人/km ²	194 人/km ²
竣工年月	2016 年 12 月	2020 年 1 月
延べ床面積(m ²)	3,152 m ²	4,967 m ²
複合	複合	複合
階層	B1F～3F	1F～2F
開館時間	10:00-18:00	10:00-21:00
蔵書数(冊)	48,874 冊	172,361 冊

表 2 調査概要

対象者	図書館のエリア利用者
調査内容	i. 家具、什器のマッピング ii. プロット調査：①一定の時間間隔で館内を巡回②利用者の滞在場所を平面図にプロット③行動内容、属性、姿勢の記録

3. 調査概要

各施設にあたる調査施設概要、施設周辺の配置図を表1、図1、図2に示す。

調査概要は、①それぞれの施設の家具、什器のマッピングを行い、②一定の時間間隔で館内を巡回し図書館内における滞在行動をプロット調査によって把握する。プロット調査では行動内容、属性^{注1}、姿勢の記録を行い、各施設の特徴的な行動を抽出する。ただし、プロットの条件として10秒以上同じ場所で同じ姿勢の場合とする。(表2)

調査日は、太田は2024年6月28日、29日、30日、那須では2024年7月12日、13日、14日に行い、どちらも金曜日、土曜日、日曜日であった。

調査対象の人数は、太田では述べ728名、那須では述べ1,647名であった。(表3)



図 1 太田市美術館・図書館周辺配置図



図 2 那須塩原図書館みるる周辺配置図

表 3 調査日とプロット述べ人数

	太田市美術館・図書館	那須塩原図書館みるる
調査日	2024/6/28(金).29(土).30(日)	2024/7/12(金).13(土).14(日)
プロット数	1日目: 192名 2日目: 290名 3日目: 246名 合計: 728名	1日目: 276名 2日目: 585名 3日目: 786名 合計: 1,647名

Regarding the user's stay behavior in the local library

- From the comparison between Ota City Museum of Art Library and Nasu Shiobara Library Miruru -

Yohei MORIYA and Teruki YMAGISHI

4. 両図書館の利用概要

4-1 施設利用者の属性分布

各図書館の施設利用者の属性分布を図3に示す。太田では成人の利用者が一番多く、次に学生、高齢者、児童の順となっている。学生の女性は男性に比べ40%ほど多く、その他は男女でほとんど変わらない分布であった。

対して、那須では学生利用が一番多く、次に成人、高齢者、児童の順となっている。学生の女性が男性に比べ60%ほど多く、成人、高齢者は男性が女性に比べ20%ほど多く、児童は男女でほとんど変わらない分布であった。

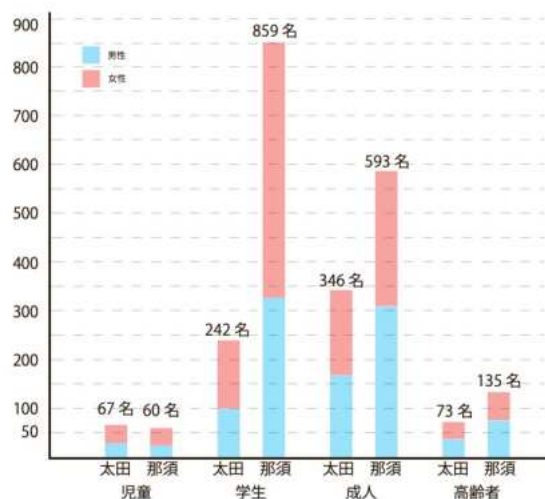


図3 施設利用者の属性分布

4-2 各図書館の利用者数の推移

各図書館における利用者の推移を図4、5に示す。太田では、平日は時間が経つにつれ利用者が増え16:00でピークを迎え、休日の土曜日は16:00でピークを迎え、日曜日は14:30にピークを迎えている。

平日は学校などの帰宅途中で立ち寄りのため遅くにピークを迎え、休日は外出し回遊行動の一部として利用する家族連れ、勉強などの目的で利用する学生などが影響しているのではないかと考えられる。

那須では、平日は時間が経つにつれ利用者が増え15:00をピークに迎え、休日の土曜日は13:00でピークに迎え、日曜日は14:00をピークに迎えている。

平日は付近の学校の帰宅路として館内を通り、半数がその後2回の座席で勉強を行っており、休日は家族連れもいるが、学生、社会人の勉強の場、交流の場として使われているため、図書目的の利用ではなく、より碎けた利用が多く見られた。



図4 太田市美術館・図書館における利用者数の推移

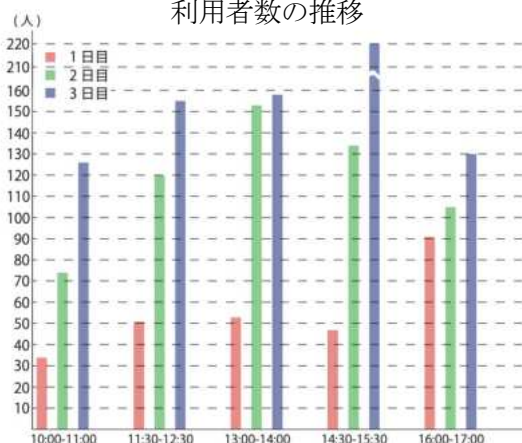


図5 那須塩原図書館みるるにおける利用者数の推移

4-3 エリアごとの座席の利用

一般書架エリア、児童書架エリアにおける座席の使用率を図6に示す。

太田ではどちらのエリアも座席利用が大半を占め、児童書架エリアが一般書架エリアと比べ、座席不使用の割合が高くなった。

那須では児童書架エリアの座席不使用が半数近くあるが、一般書架の座席不使用はほとんど見られなかった。

那須は児童書架エリアの半分が弾力性のあるマットを敷き、紙芝居のイベントなどを行っていたため、太田に比べ座席不使用の数が多かったと考える。

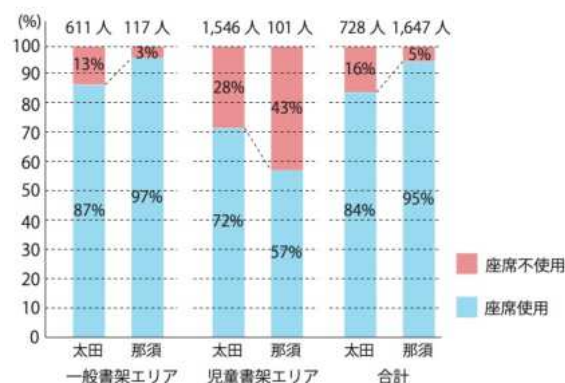


図6 エリアごとの座席の使用率

5. 調査結果

プロット調査で得た図を図7、8で示す。青のプロットは座席の着座利用、赤のプロットは座席不使用の位置である。

5-1 各図書館のプロット詳細

太田では、各階のプロットの特徴として図書館全体に散らばったような分布が見て取れる。

1Fでは、1～2Fスロープに赤のプロットが見うけられ、本棚に沿って立位での利用者が分布していることがわかる。2Fでは、1～2Fスロープ、図書カウンターエリア、児童閲覧室、2～3F階段に赤のプロットが分布している。特に赤のプロットが多い1～2Fスロープでは、壁にそって凸型本棚が配置されているため、本棚に沿っての立位での利用が多いことがわかる。同様に、図書館カウンター、児童閲覧室も凸型本棚があり、そこを中心に赤のプロットの分布がされている。3Fでは、赤のプロットの分布があまり見られず、1F、2Fに比べ、一般閲覧室での座席利用も少ないことから、人の利用があまり無いことが見られる。

那須では、各階の特徴として、青のプロットが大きく目立ち、赤のプロットが分布しているのがあまり見受けられない。1Fでは、ニュースエリア、児童閲覧室の一部に赤のプロットが分布していることがわかる。ニュースエリアでは什器に囲まれてプロットされ、児童閲覧室も同じく、什器に囲まれた所でプロットされている。2Fでは、アクティブラーニングスペースでいくつか赤のプロットが分布されているが、大半が青のプロットである。アクティブラーニングスペース以外のエリアでの赤のプロットの特徴として、書架の周りでいくつか見受けられることができる。

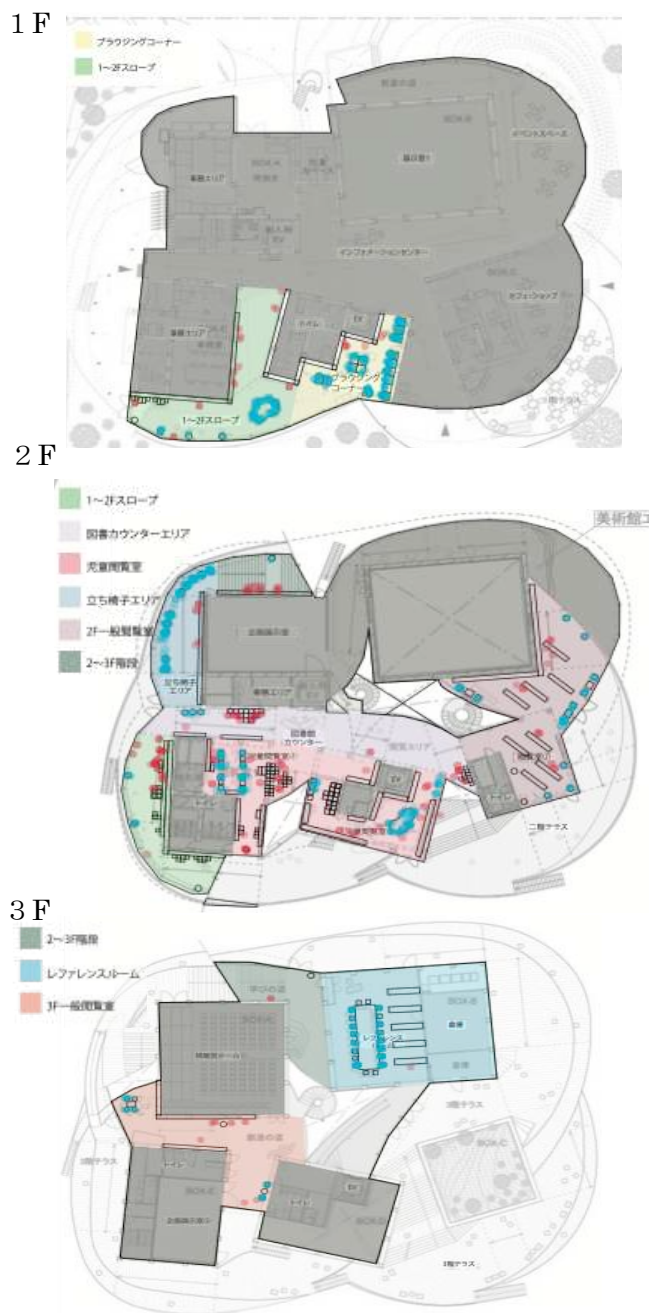


図7 太田市美術館・図書館における三日間の滞在者のプロット

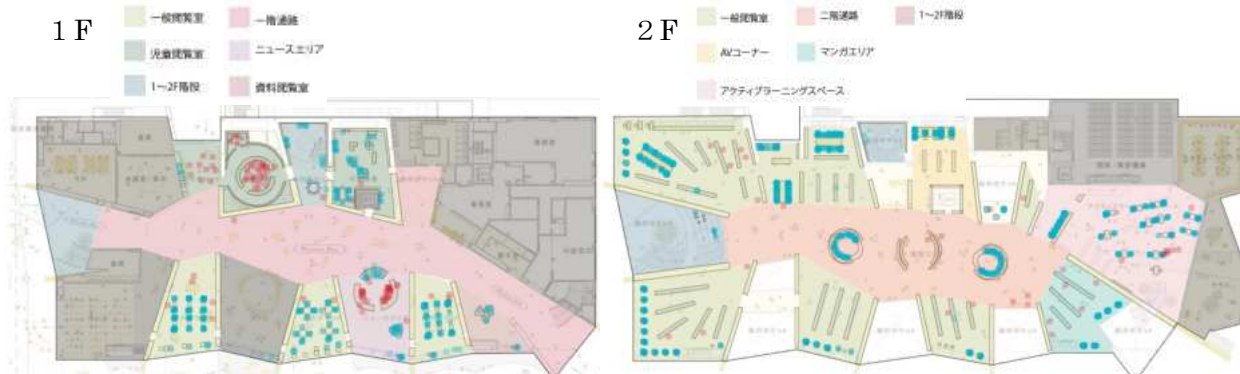


図8 那須塩原図書館みるるにおける三日間の滞在者のプロット

5-2 両図書館での特徴的な姿勢での利用

各図書館での特徴的な利用を示した様子を図9で示す。白縁で数字が振られた4、5、6、7、8は太田、黒縁で数字が振られた1、2、3、9、10、11、12は那須で得られたものである。

特徴的な利用として、1、3、4、5、6、8、10、11、12、は床座、2、7、9では椅子に座った際の特徴を捉えた。

一般閲覧室での特徴的な利用として、1では、「椅子を背もたれにし、地べたに座って本を読む。」、2では、「椅子の上で横になりながら本を読む。椅子に足を乗けて、体を捻って読む。」、3では、「1人は椅子に座り、1人は段差に座り、もう1人は床であぐらになりながら話をする。」、4では、「階段に座って一つの本を男女で読む。」、5では、「凸型本棚に登って本を読む。凸型本棚に座って本を読む。」、6では、「床で体操座りをしながら本を読む。」などがあつた。

両図書館での一般閲覧室の特徴として、太田では什器の利用として、書架を登る・着座、階段に座るなど様々な利用が見られ、那須では座席を介しての特徴的な利用が見られた。

児童閲覧室での特徴的な利用として、7では、「絵本の読み聞かせを床座で親のあぐらの上に座りながら見る。」、8は、「床座をして、体を捻って地面に本を置いて読む。」、9では、「親が階段の段差に座り本を見せ、子供が球体のクッションに座ってみる。本棚一体型椅子で体を倒して横になりながら本を読む。」、10では「絵本の読み聞かせを床座で親のあぐらの上に座りながら見せる。」、11では、「本棚に本をおいて、床に正座して読む。」、12では、「マットの上で、うつ伏せになりながら本を読む。足を伸ばし、書架を背もたれにしながら本を読む。」などがあつた。

両図書館での児童閲覧室の特徴として、共に着座、床座などの利用が見られ、自由な利用のされ方であると見られる。

6. まとめ

本研究では、開かれた地域の居場所として設計された図書館では利用者がどのような滞在行動をしているのか調査を行なった。その結果、那須では着座利用が多く見られ、一般的な図書館をより居場所として利用のしやすい図書館であると考ええる。

太田では座席不使用が広く分布しており、書架と人が介在し特徴的な姿勢などが見られ、図書館の使われ方がよりユニークであると考ええる。

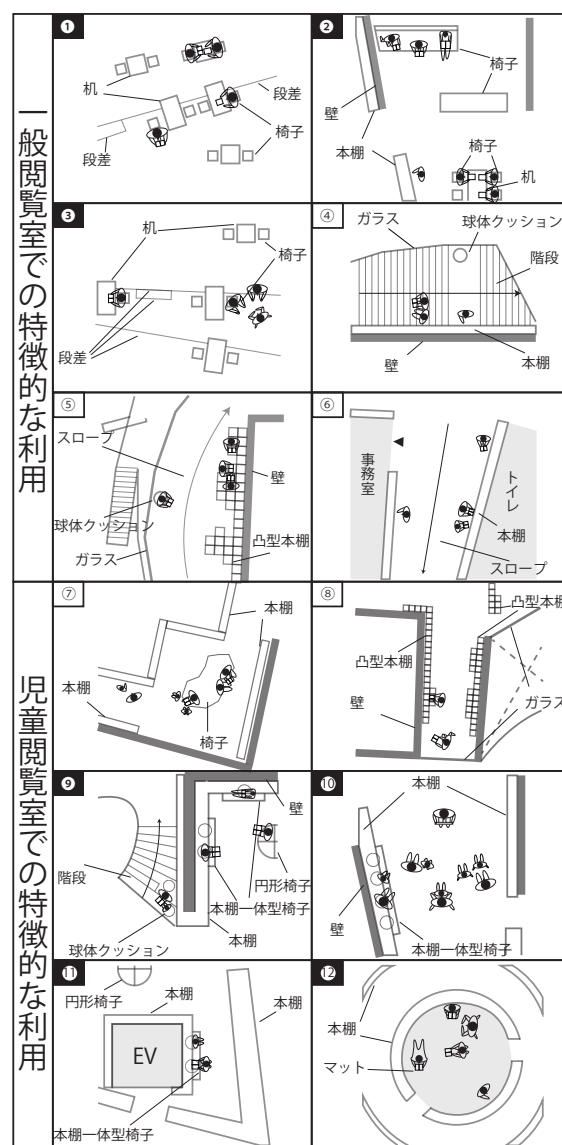


図9 各図書館での特徴的な利用

参考文献

- 1) 守屋陽平,山岸輝樹「図書館における本を読む姿勢の多様性調査」日本大学卒業論文概要集 (2022/3)
- 2) 青木美佑紀,山田あすか「書店における客の滞在書架と探索行動特性に関する研究-店舗ごとの建物・配架形態と客の属性による比較-」日本建築学会計画論文集 第74巻 (2009/3)

注1.属性は調査者の判断による